

## P9. 北丹後地震(Mj7.3)と震災記念碑

The Mj=7.3 Kita-Tango earthquake of 1927 and the earthquake-disaster monuments in the Tango Peninsula, Southwest Japan

○今井利宗(川崎地質株式会社), 金折裕司(山口大学)  
Toshimune Imai, Yuji Kanaori

### 1. はじめに

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)は、死者・行方不明者18,716人(平成24年8月15日現在)という甚大な被害をもたらした。特に東北地方沿岸部では、この地震で誘発された津波による爪痕が大きく残された。

津波被害に関連した報道の中で“津波記念碑”が目された。岩手県宮古市姉吉地区の大津浪記念碑には、『高さ住居は児孫の和楽 想へ惨禍の大津浪 此処より下に家建てるな 明治二十九年にも昭和八年にも津浪は此処まで来て 部落は全滅し生存者僅かに前に二人後に四人のみ 幾歳経るとも要心あれ』と刻まれている。この教訓は後世に受け継がれ、東北地方太平洋沖地震による津波被害軽減に役立ったとされる。

京都府北西部の丹後半島では、1927年北丹後地震(Mj7.3)が発生し、死者・行方不明者は2,925人であった。今井・金折<sup>1)2)</sup>は、この地震に関連した活断層を対象として地表踏査を実施した。その踏査中に活断層に沿った地域で、北丹後地震に関連した震災記念碑や慰霊塔が建立されていることを知った。これらの震災記念碑や慰霊塔には、上記の“大津浪記念碑”と同様に震災の概要および教訓が刻まれている。しかしながら、北丹後地震から85年経った今、その存在は忘れられてきているように感じられるとともに、全ての記念碑や慰霊塔の碑文と位置を記載した資料はない。震災記念碑と慰霊塔に刻まれた碑文は、北丹後地震の記憶を後世に伝えるだけでなく、地域防災の啓発にも大変有効的であると考えられる。

本研究では、北丹後地震(Mj7.3)に関連した震災記念碑の所在を既存の文献および現地調査から明らかにし、それに刻まれた碑文を解説する。それらを編集して資料集として纏め上げる。

### 2. 北丹後地震の地震断層と被害域

図1に北丹後地震のときに地表に出現した郷村断層および山田断層の位置と家屋の倒壊率を示す。郷村断層は、京丹后市網野町から大宮町にかけてNNW-SSE方向に18kmの区間で出現した。一方、山田断層は、与謝野町岩滝から岩屋までNE-SW方向で7kmの区間に現れた。

北丹後地震で最も家屋の倒壊率が高かった地域は、京丹后市の峰山地区、網野地区、与謝野町の山田地区であり、いずれも75%以上の値を示す。これらの地域

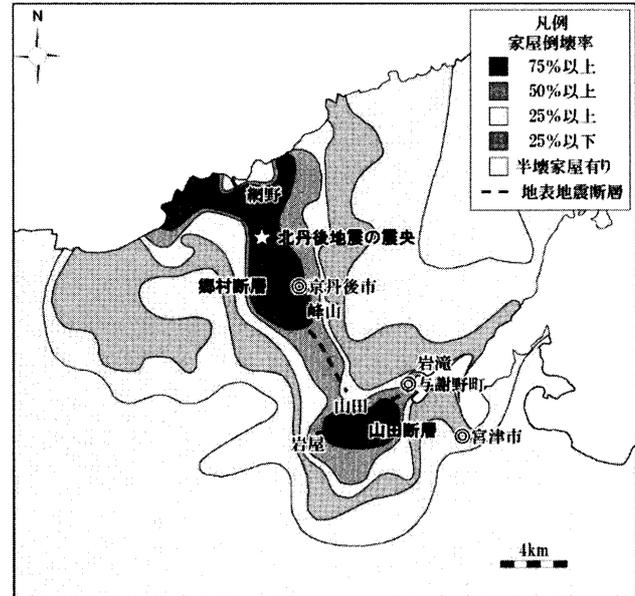


図1 北丹後地震の地表地震断層位置と家屋倒壊率の分布 地表地震断層位置は岡田・松田<sup>3)</sup>、家屋倒壊率は京都府<sup>4)</sup>を参考にした。

は地震断層に最も近接した地域である。倒壊率25%以上の地域は、郷村断層の東西10km以内および山田断層から南北7km以内の幅で帯状に広がる。倒壊率25%以下の地域は両断層の中央部から円状を呈しており、径は郷村断層で約15km、山田断層で約8kmである。

### 3. 北丹後地震の震災記念碑と慰霊塔

後述するように、震災記念碑や慰霊塔は家屋の倒壊率が50%以上の地域に点在している。これらの震災記念碑と慰霊塔には、建立されている場所とそこに刻まれた碑文の違いがみられる。震災記念碑は、主に地域の集会場や神社に建立されており、地震の概要および教訓が刻まれている。それに対して、震災供養塔は仏閣および学校に建立されており、地震の概要と犠牲者の名前が刻まれている。

図2には一例として、網野町郷地区にある震災記念碑を示す。網野町郷では顕著な地震断層が現れたことから、郷村断層の名前の由来になるほど被害の大きかった集落の一つである。震災記念碑は高さ180cm、横幅150cm、奥行30cmである。この碑の裏面には、次の碑文が刻まれている。

『昭和二年三月七日午後六時廿七分突如起ッタ丹後大震災ハ其震央近畿一体ニ互リ其被害丹後四郡ニ及



図2 北丹後地震の震災記念碑 京丹後市郷

ブ当地方有史以来ノ大惨禍デアッタ 山ハ崩レ給ハ埋レ地ハ裂ケ屋ハ倒レ火災ノ猛威之ニ乗ジ三千ノ生霊ト七千余ノ住家ヲ奪イ一家団欒ノ楽シミヲ一瞬ニ阿鼻叫喚ノ巷ト化シタ 就中震源地タル郷区ハ垂直変位〇九五米水平変位三・一五米ノ断層ガス如ク其被害最モ激甚ヲ極メ山野田畑道路ノ別ナク亀裂断層陥没転差崩潰等ヲ生ジ総戸数一五五戸中僅カニ半潰二戸ヲ除キ凡ベテガ全潰シ三六戸ガ全焼シタ 尚即死者六三重軽傷者百四十五ノ犠牲ヲ出シ三尺余ノ積雪ノ上ニ坐シテ寒雨ニ濡レ飢ト寒サニサラサレテ親子兄弟夫婦姉妹互ニ相求メテ泣キ叫ブ相ハ追憶スルダニ慄然タラザルヲ得ナイ 茲ニ吻心両面ニワタル國ヲ挙ゲテノ救援ト海外カラノ厚キ同情トニ対シ衷心ヨリ感謝シツツ惨禍ノ概要ヲ記シテ後世回顧ノ資トスル』。

与謝野町下山田にある震災供養塔には地震の概要と140人もの犠牲者の名前が刻まれている。

北丹後地震の起きた3月7日には毎年、いくつかの震災記念碑や慰霊塔の前では慰霊祭が行われ、犠牲者が追悼されている。

#### 4. 北丹後地震と震災記念碑

##### 4.1 地震断層と震災記念碑の分布

震災記念碑および慰霊塔は、丹後半島に位置する市町村が発行している史誌(例えば、岩滝町<sup>5)</sup>)などで一部紹介されている。これら既存の資料に記載されている碑以外にも、複数の碑が蒲田<sup>6)</sup>によって確認されており、本研究では100か所あまりの寺社を巡り、そのうち40か所で震災記念碑および慰霊塔を確認した。図3には、確認された記念碑および慰霊塔と地震断層の位置を示す。震災記念碑や慰霊塔は、北丹後地震の地震断層に沿った地域に建立されている。郷村断層北部では、断層から東西に6km離れた地域においても震災慰霊塔が確認された。山田断層南西部では、断層から南に3km離れた地域で震災慰霊塔が確認された。

##### 4.2 地震防災と震災記念碑

震災記念碑には、北丹後地震による被害と地震への

教訓が刻まれている。震災慰霊塔には、犠牲者の名前が刻まれており、地震の悲惨さを克明に今に伝えている。40か所の石碑に刻まれた教訓や記録を記載し、記念碑や慰霊塔の写真とともに掲載した小冊子『震災記念碑 後世に残された北丹後地震の記録』(全62p)を作成した。石碑の位置は、ロードマップ上に正確にプロットし、地図を見ながら全箇所が確認できるように配慮した。解説した文章から地震の悲惨さが生々しく伝わってくることから、解説文はつけていない。

小冊子は、京丹後市と与謝野町にある9か所の図書館で閲覧できる。この小冊子が北丹後地震を後世に語り継ぎ、さらに地域防災や地震災害の軽減につながることを期待したい。

#### 5. 引用文献

- 1) 今井利宗・金折裕司(2010)：1927年北丹後地震(Mj7.3)-郷村断層と山田断層のテクトニクス、日本応用地質学会平成22年度研究発表会講演論文集、211-212。
- 2) 今井利宗・金折裕司(2011)：丹後半島、山田断層の非活動部における地震危険度評価、日本応用地質学会平成23年度研究発表会講演論文集、181-182。
- 3) 岡田篤正・松田時彦(1997)：1927年北丹後地震の地震断層、活断層研究、16、95-135。
- 4) 京都府(1928)：奥丹後震災誌、648p。
- 5) 京都府岩滝町(1994)：岩滝町史、723p。
- 6) 蒲田文雄(2006)：昭和二年北丹後地震、古今書院、215p。

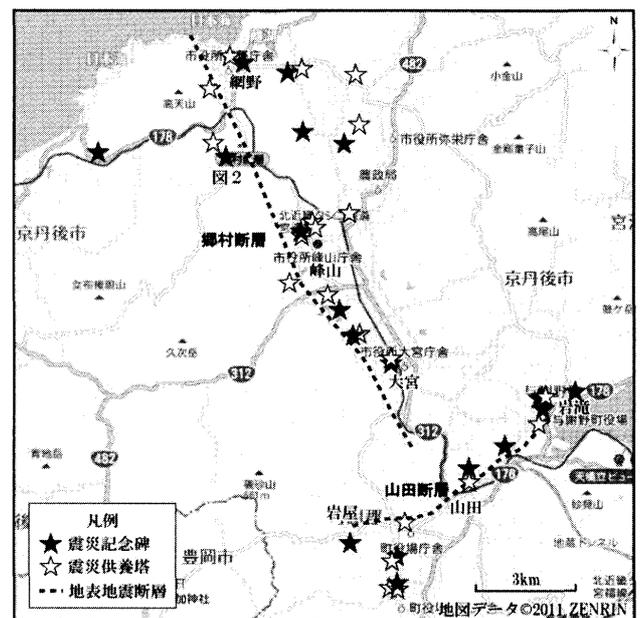


図3 震災記念碑と地表地震断層の位置